

上三川町集中改革プラン(第3期)
平成30年度実施状況等報告書

令和元年8月

上三川町

集中改革プラン（第3期）平成30年度実施状況について


1 はじめに

上三川町集中改革プラン(第3期)は、平成28年度から令和2年度(5ヵ年)までを計画期間とし、上三川町行政改革大綱(第5期)に掲げた4つの「シンカ」をもとに、「取組事項」(特に重点的に取り組むべき項目)の「取組の内容」や「実施年度(5ヵ年の計画)」等を定めています。

2 進捗状況の検証・評価方法について

上三川町集中改革プラン(第3期)の進捗状況を客観的に検証するため、集中改革プラン評価委員会において、すべての取組の内容について評価を行いました。

「評価委員会評価」は、令和2年度に目標を達成するため、平成30年度の実績がどの程度進捗しているかを、下の5段階で評価したものです。

5段階評価 (単年度評価)		A	目標以上に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間より早く目標値達成が見込める 事業内容が目標達成に非常に効果が認められる
		B	目標達成に向けて順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間内の目標値達成が見込める 事業内容が目標達成に効果が認められる
		C	やや遅れているが概ね順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間内の目標値達成に向けて対策が必要と判断される 目標達成のために、事業内容に工夫が必要
		D	遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間内の目標値達成が難しいと判断される 目標達成のために、事業内容の見直し・改善が必要
		E	未着手	<ul style="list-style-type: none"> 未着手

3 平成30年度の実施状況について

達成度別の取組数

平成30年度実績は、32取組中10取組で「目標以上に進んでいる」、17取組で「順調に進んでいる」、5取組で「概ね順調に進んでいる」と評価されました。今後、評価委員会で受けた意見・提言をもとに、令和2年度の全取組の目標達成に向けて事業を推進してまいります。

5段階評価別	取組数	全体に占める割合(32取組中)
A 目標以上に進んでいる	10	31.3%
B 目標達成に向けて順調に進んでいる	17	53.1%
C やや遅れているが概ね順調に進んでいる	5	15.6%
D 遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい	0	0.0%
E 未着手	0	0.0%

目 次

シンカ	基本的方向	取組事項	No.	取組内容	評価委員会 評価
I 真価	職員意識の向上 と人材育成	事務事業の整理・合理化	1	職員提案制度の推進	B
			2	行政評価制度の推進	A
		職員研修の充実	3	職員研修の実施（県、アカデミー、芳賀広域、町）	A
			4	職場内研修（OJT研修）の実施：職場内での日常の教育指導の充実	—
		職員のやる気向上	5	人事評価制度の導入	—
	組織機構の見直し・組織力の強化	定員管理の適正化	6	適正な定員管理	B
			7	人事交流の実施	—
		最適な組織機構の編成	8	組織機構、事務分掌の見直し	A
		業務改善の推進	9	横断的ミーティングの活用（オフサイトミーティング）	A
II 芯下	財政の健全化	職員給与の適正化	10	給与水準の適正化の維持	—
			11	経常収支比率の改善	B
		経費の節減合理化	12	可燃ごみ及び資源物への分別と生ごみの水切りの周知・徹底	B
			13	水道料金等の支払いにおける口座振替利用の促進	C
			14	農業集落排水の接続率の向上	B
			15	水道普及率の向上	B
	歳入の確保・施設の有効活用	町税等の徴収率の向上	16	現年度課税分の年度内完納	B
			17	個人住民税未申告者の減少	B
			18	課税客体の的確な把握と適正な課税	A
			19	町営住宅家賃及び駐車場使用料の徴収率向上を図るための改善	B
		広告収入の増加	20	広報かみのかわ等広告掲載事業の推進	B
		財産の有効活用	21	行政財産の見直し	B
			22	公用車の効率的な更新	A
		公共施設マネジメントの推進	23	橋梁長寿命化計画に基づく維持管理	A
		III 伸化	今ある価値の伸化	イベントの活性化	24
25	町民スポーツ・レクリエーション祭の活性化				B
地域発信力の強化	26			かみたんメールへの関心の増加及び適切な登録方法の紹介	A
	27			農産物及び加工品等のブランド化	B
生活の向上	28		中核的担い手農家等へ農地の利用集積	B	
	29		デマンド交通の利用促進	C	
健康マイレージ事業の参加促進	30			C	
IV 深化	町民・地域との協働		町民活動・ボランティアの育成支援	31	ボランティアセンターの設置
		32		自主防災組織の設立推進	C
		地域防災力の強化	33	コミュニティ活動の推進	C
			34	いきいきプラザ利用者提案制度の推進	A
			35	女性委員登用率の向上の推進	B
	官民協働	民間活力の導入	36	大山保育所の民営化	—
	自治体との連携	自治体間の交流推進	37	地域間交流活動の推進	A
				A：目標以上に進んでいる	10
				B：目標達成に向けて順調に進んでいる	17
				C：やや遅れているが、概ね順調に進んでいる	5
				D：遅れが生じており、このままでは目標達成は難しい	0
				E：未着手	0

P (計画)	主要施策(シカ)	真 価	基本的方向			職員意識の向上と人材育成																							
	取組事項	事務事業の整理・合理化			取組区分		第2期プランから継続																						
	現状(当初)と課題	職員提案は、通年にわたり随時募集受付しているが、提案の提出数が少ない状況にある。いかに提案提出へと導き出すかが課題である。																											
	取組の内容	① 職員提案制度の推進																											
		提案しやすい職場環境づくりに努めるとともに、職員へ広く周知するなど、より多くの提案によって事務事業の改善や合理化を図る。																											
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																						
	職員提案の募集(通年)		実施																										
	職員への周知(周知方法改善)		実施																										
	職員提案制度要綱の見直し検討		検討																										
	事業実施した場合、想定できる効果		業務見直しにより事務の合理化が図られる。町民サービスの更なる向上。行政課題の解決促進。																										
D (実)	取組実績	対象者・物(誰・何に)			取組(何を)																								
		全職員対象			職員提案の募集を実施																								
C (評価)	自己評価	進捗状況																											
		B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																											
		良かった点	施策の提案を、係単位で行う企画を実施し、係内で施策の議論を行うことができた。																										
	悪かった点	提案内容を実現性の有無を問わなかったため、実現した提案がなかった。																											
A (改)	実施予定・変更点など	同様の機会を継続していく上で、実現性のある内容へと移行する。																											
P / C	数値目標・実績	項目名	単位		<table border="1"> <caption>数値目標・実績の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>7</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>9</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>11</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>13</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>15</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>				年度	目標	実績	計画当初	-	6	H28	7	20	H29	9	5	H30	11	42	R1	13	-	R2	15	-
		年度	目標	実績																									
		計画当初	-	6																									
		H28	7	20																									
H29	9	5																											
H30	11	42																											
R1	13	-																											
R2	15	-																											
単年度の提案数(各課1提案)	件																												
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																											
6 (平成26年度 実績)	15	42																											

評価	評価委員会評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を実施したのであれば、実現性を求めてもらいたい。 ・今後は実現性、合理化によるコスト削減・時短などの実績が残るような取り組みになるよう求める。 ・提案数が多いことに越したことはないが、実現した場合の職員に対する具体的な評価基準を定めるような取り組みするとよいのではないか。

P (計画)	主要施策(シカ)	真 価	基本的方向		職員意識の向上と人材育成																							
	取組事項	事務事業の整理・合理化		取組区分	第2期プランから継続																							
	現状(当初)と課題	実施計画の全事業を対象に評価を行っている。 行政評価によるPDCAサイクルの更なる活用が必要となっている。																										
	取組の内容	② 行政評価制度の推進																										
		評価制度を取り入れることで、限られた財源を有効に活用し、総合計画の基本計画に位置づけられた目標を実現するため、PDCAサイクルにより事務事業を効率的かつ効果的に推進する。 また、評価対象事業及び評価方法についても検討・改善していく。																										
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
	行政評価の実施		実施																									
	評価対象事業及び評価方法の検討・見直し		検討	見直し(実施)																								
事業実施した場合、想定できる効果		計画(P)→実行(D)→評価(C)→改善(A)の作業を繰り返し行うことにより、効率的・効果的な行政運営が行える。																										
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																								
		総合計画実施計画の事業 (主に200万円以上の事業)		財務会計システムの更新に併せ、行政評価を入力できるよう一元化を図った (効果の上がった事業割合 79/107 73.8%)																								
C (評価)	自己評価	進捗状況	B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																									
		良かった点	財務会計システムを連動できるため、昨年度の事業費が一目で分かるようになった。目標値を毎年度数値化できるものに見直しを行い、効果の見える化推進を図った。																									
		悪かった点	財務会計システム更新に併せ、実施方法を変更し効率化を図ったが、担当課から入力方法に変更し戸惑う意見が多くみられた。実施前に入力対象者向けの作業説明会を行ったが、作業する側の視点に立ち、以前の項目との対比ができるような周知の方法を行う必要があった。																									
(改善) A	実施予定・変更点など	昨年度システム改修に伴い、各事業の評価項目(定数評価)について見直しを図り、毎年度取組み効果が把握しやすいよう改善を行った。引続き、事業実施担当課へ数値目標による事業管理を意識付け、事業効果向上に向けて取組んでいく。																										
P / C	数値目標・実績	項目名	単位		<table border="1"> <caption>数値目標・実績</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>80</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>80</td> <td>91.7</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>80</td> <td>93.9</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>80</td> <td>73.8</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>80</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>80</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	80	0	H28	80	91.7	H29	80	93.9	H30	80	73.8	R1	80	-	R2	80	-
		年度	目標 (%)	実績 (%)																								
		計画当初	80	0																								
		H28	80	91.7																								
H29	80	93.9																										
H30	80	73.8																										
R1	80	-																										
R2	80	-																										
前回より効果の上がった事業の割合	% (事業数/全評価事業数)																											
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																										
-	80.0	73.8																										

評価	評価委員会評価	A	・新しいシステムに対する勉強会や対応を行う必要がある。

P (計画)	主要施策(シカ)	真 価	基本的方向	職員意識の向上と人材育成																							
	取組事項	職員研修の充実		取組区分	新規(取組再設定)																						
	現状(当初)と課題	人材育成基本方針に基づき、町における全体研修や芳賀広域・縣市町村振興協会・市町村アカデミーなどの研修に職員を参加させている。多くの職員が研修に参加できる機会を与えることが必要。																									
	取組の内容	① 職員研修の実施																									
		幅広い行政能力や高度な専門知識の修得などを目的に、各種研修への派遣や町独自の研修会を実施する。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	研修計画策定・実施		実施	実施	実施	実施	実施																				
	町独自の全体研修の実施(毎年度)		実施																								
	芳賀広域・縣市町村振興協会職員派遣		実施																								
	市町村アカデミー職員派遣		実施																								
専門研修派遣推進		実施																									
事業実施した場合、想定できる効果		職員の資質を向上させることにより、複雑多様化する行政サービスに対応でき、もって組織の目標達成に貢献できる。																									
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																						
			全職員		各種研修を受講する機会を提供(全体研修・専門研修派遣等)																						
C (評価)	自己評価	進捗状況	B:目標達成に向けて順調に進捗している。																								
		良かった点	階層別研修を1階層(係長)から3階層(主事・主査・係長)に拡充した。																								
		悪かった点	管理職研修が実施できなかった。																								
(改善)	A	実施予定・変更点など	管理職研修も実施し、4階層すべてで研修を実施する。 研修効果を考え、1階層あたり20名程度を受講者としているので、未受講者にも同様の研修を受講させる。																								
P / C	数値目標・実績		項目名	単位		<table border="1"> <caption>研修参加者数推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>38</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>76</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>114</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	計画当初	-	0	H28	-	0	H29	20	20	H30	38	61	R1	76	-	R2	114	-
			年度	目標	実績																						
			計画当初	-	0																						
H28	-	0																									
H29	20	20																									
H30	38	61																									
R1	76	-																									
R2	114	-																									
階層別研修(主事・技師、主査)の延べ受講者数	人																										
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
-	114	61																									

評価	評価委員会評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の自己レベルアップのためにも研修は重要なので、継続してもらいたい。 ・職員の業務のためにも必要なことであるため、更なる効果がでるよう研修内容も時代に即したものになるよう見直しながらか引き続き実施してもらいたい。 ・管理職向けに今年度実施を予定しているリスクマネジメントの研修は適当であると思う。他の市町の職員と合同で行う研修も取り入れ自分のレベルを認識できるような形式もよいと思う。

削除

P (計画)	策(シムカ)	真 価	基本的方向		職員意識の向上と人材育成		
	事 項	職員研修の充実		取組区分		新規	
	現状(当初)と課題	平成27年度より、新規採用職員の育成のため、配属された各職場において指導員を選任し指導する「職場内研修」を実施している。指導効果が未達成の職員については、引続き指導することが必要である。					
	取組の内容	② 職場内研修(OJT研修)の実施:職場内での日常の教育指導の充実					
		新規採用職員職場研修実施要領に基づき、新規採用職員や若手職員に対し、仕事の進め方や待遇など職務遂行に必要とされる事項について職場内教育を積極的に推進する。					
	数値目標・実施期限等	項目名	単位	当初(平成28年度)		目標(平成32年度)	
		職場内研修の実施率 (職場ルール・マナー・ 待遇・仕事の進め方・ 執務能力ほか)	%	(研修目標達成者) 100		(研修目標達成者) 100	
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	新規採用職員の職場内研修実施・効果確認		実施				
	研修実施の見直し(検証)		検証				
事業実施した場合、 想定できる効果	新規採用職員の職務遂行能力の早期習得と指導者の指導能力向上により、個人の労働意欲向上や組織全体の意識向上に繋がる。						

削除

P (計画)	真 価	基本的方向			職員意識の向上と人材育成		
	事 項	職員のやる気向上			取組区分	第2期プランから継続	
	現状(当初)と課題	平成24年度より人事評価を実施しているが、平成28年度からの新たな人事評価を実施する上で各評価者の評価のばらつきを低減し評価目線の統一が課題である。					
	取組の内容	① 人事評価制度の導入					
		より高い能力を持った職員の育成のため、能力・実績に基づく人事評価制度を確立する。					
	数値目標・実施期限等	項目名	単位	当初(平成28年度)		目標(平成32年度)	
		平成28年度より、新たな人事評価制度を導入		人事評価 (平成26年度)		制度の導入であり目標となる数値はなし。	
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	新たな人事評価制度導入		実施				
	評価者の研修		実施				
人事評価導入検証		検証					
事業実施した場合、想定できる効果	組織全体の士気高揚、公務能率の向上により住民サービス向上に繋がる。						

P (計画)	主要施策(シカ)		真 価	基本的方向		組織機構の見直し・組織力の強化			
	取組事項		定員管理の適正化		取組区分		第2期プランから継続		
	現状(当初)と課題		平成27年度までの定員適正化計画に基づき適正な人員確保に努めている。平成28年度からの新たな計画に基づき、より効率的な組織機構の構築を踏まえながら適正な人員確保及び年齢構成の平準化が課題である。						
	取組の内容		① 適正な定員管理 平成28年度からの定員適正化計画に基づく社会情勢等を踏まえた適正人員確保を図る。						
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	定員適正化計画に基づく定員管理			実施					
	新規採用職員の計画的採用			実施					
	定員適正化計画の検証						検証		
	定員適正化計画の策定						実施		
	事業実施した場合、想定できる効果		組織運営や事務処理の効果的、効率的な運営と合理化が図れる。						
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)				
			<ul style="list-style-type: none"> 45歳以上職員(20年以上勤続) 職員採用希望者 		<ul style="list-style-type: none"> 45歳以上の職員対象に早期退職の募集を実施 35歳までの方を対象に職員採用試験を実施 				
C (評価)	自己評価	進捗状況	B:目標達成に向けて順調に進捗している。						
		良かった点	前年度採用できなかった障がい者及び土木・建築事務の採用ができた。						
		悪かった点	内定者のうち2名が辞退したため、計画数とより乖離する結果となった。						
(改善) A	実施予定・変更点など		前年度に採用試験の試験回数を2次試験から3次試験へと増やしたことで、より人物重視での採用が行えていると考える。今後も、同様の視点で採用実施していく。						
P / C	数値目標・実績		項目名	単位					
			平成28年度からの「定員適正化計画」に基づきながら、各年度の適正人員を検討し採用計画を立てる。		人				
			計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)				
		216 (平成27年4月1日)	219 新たな定員適正化計画を策定	214					
評価	評価委員会評価		<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の法定雇用率もクリアされており今後も継続してもらいたい。また、率にはこだわらず可能であれば障がい者の雇用を増やすことも検討してもらいたい。 						
	B								

P (計画)	削除	策(シカ)	真 価	基本的方向		組織機構の見直し・組織力の強化			
	事 項	定員管理の適正化		取組区分		第2期プランから継続			
	現状(当初)と課題	栃木県実務研修や宇都宮市及び小山広域保健衛生組合に派遣(出向)している。県警察本部からの職員受入を実施。県に対して町では相互交流を希望しているが出来ない状況(平成25年度までは県と相互交流を実施していたが、受入先の関係で実務研修とされている。)							
	取組の内容	② 人事交流の実施							
		栃木県や他の行政機関への実務研修や職員派遣を継続実施する。							
	数値目標・実施期限等	項目名	単 位	当初(平成28年度)		目標(平成32年度)			
		・栃木県への実務研修継続 ・県との相互交流検討 ・他の行政機関への職員派遣の継続 ・県警察本部からの受入継続	人	派遣は派遣期間や人数など各行政機関との協議が伴うものであるため事前には設定できない。		派遣は派遣期間や人数など各行政機関との協議が伴うものであるため事前には設定できない。			
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	人事交流実施		実 施						
	人事交流検証		検 証						
他の行政機関等との交流検討		検 討							
事業実施した場合、想定できる効果	職員の視野の拡大、専門知識の習得、政策形成能力の向上が図られ、質の高い行政サービスを提供できる。								

P (計画)	主要施策(シムカ)		真 価	基本的方向		組織機構の見直し・組織力の強化																								
	取組事項		最適な組織機構の編成		取組区分		第2期プランから継続																							
	現状(当初)と課題		法改正や多種多様化した町民ニーズに対応するため事務分掌及び組織機構を随時見直している。常に町民にとって分かりやすく、町民サービスの向上が図られる効率的な組織機構が求められている。																											
	取組の内容		① 組織機構、事務分掌の見直し 組織全体として職務能率の向上を図り、町民ニーズに対応した行政サービスを簡素で効率的な組織機構により提供できるように見直しを行う。																											
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																							
	組織に関する課長ヒアリングの実施		実施	実施	実施	実施	実施																							
	事務分掌・組織機構見直し		検 証 実 施																											
事業実施した場合、想定できる効果		組織運営や事務処理の効果的、効率的な運営と合理化が図れる。																												
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																									
			各課室局長		組織に関するヒアリングを実施																									
C (評価)	自己評価	進捗状況		B:目標達成に向けて順調に進捗している。																										
		良かった点		組織機構の見直しを実施した。																										
		悪かった点		特になし																										
(改善)	実施予定・変更点など		福祉・健康部門を中心に組織機構の見直しを実施した。その結果を踏まえ、組織運営上の不具合等を課長ヒアリングを実施することで確認する。																											
P / C	数値目標・実績		項目名		単位		<table border="1"> <caption>数値目標・実績の推移</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>			時期	目標	実績	計画当初	0	0	H28	0	0	H29	0	0	H30	1	1	R1	1	1	R2	1	1
			時期	目標	実績																									
			計画当初	0	0																									
H28	0	0																												
H29	0	0																												
H30	1	1																												
R1	1	1																												
R2	1	1																												
組織機構に関するヒアリングの実施		件																												
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																												
-	1	1																												
評価	評価委員会評価		<ul style="list-style-type: none"> ・町民サービスの向上につながる組織改編は評価できる。 ・必要な組織変更で縦割りが解消されてきている。評価ヒアリングを実施しているなかでも、縦割りがかなりなくなってきたと感じた。 ・組織の見直しの中で、課長の資質向上のためにも部長制について検討するべきである。 																											
	A																													

P (計画)	主要施策(シカ)	真 価	基本的方向		組織機構の見直し・組織力の強化																						
	取組事項	業務改善の推進		取組区分	新規																						
	現状(当初)と課題	各担当が抱える課題を、提示し検討する機会が少なく、適切な対応が遅れることがある。																									
	取組の内容	① 横断的ミーティングの活用(オフサイトミーティング)																									
		複数の所属課にまたがる課題解決として、横断的なミーティングの活用を進める。 また、所属課の枠を超えて話し合うことで、個人の意欲や協力し合う自発性を引き出す。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	設置及び運営に関する基準の策定		検討	策定・見直し																							
	課題の抽出(テーマの選定)		アンケートの実施																								
横断的ミーティング活用の周知		実施																									
事業実施した場合、想定できる効果		所属の枠にとらわれず、複数の課からの必要な能力や経験を持つ人材を集めることで、幅広い視点に立ち、検討と対応ができる。																									
(実行) D	取組実績	対象者・物(誰・何に)	取組(何を)																								
		上三川町職員	女性による横断的ミーティングとして、FMかみのかわ(自主勉強会)を実施した。 【上三川知名度向上策の検討】 ・SNSで利用できる上三川町紹介グッズを作成し、浅草での上三川町農産物フェア等で活用 ・他市事業を活用した町PRグッズ応募(越前織のネックストラップ)																								
(評価) C	自己評価	進捗状況	B:目標達成に向けて順調に進捗している。																								
		良かった点	自分の意見を持ちながら、普段の会議では中々意見が発言することが出来ない(慣れていない)世代や女性にターゲットを絞り、意見が出しやすい環境による会議を行うことができた。																								
		悪かった点	月に1回程度の開催であるため、検討できる項目が少なかった。																								
(改善) A	実施予定・変更点など	H30に立ち上げたFMかみのかわにおいて、LINEスタンプのデザインやポロシャツのデザイン、シティブロモーションガイドブックなど、女性の目線で検討していく。 今年度は総合戦略や総合計画の策定期間であるため、別のワーキンググループを立ち上げて、検討していく。																									
P/C	数値目標・実績	項目名	単位	<table border="1"> <caption>数値目標・実績の推移</caption> <thead> <tr> <th>期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>40</td> <td>44.4</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>55</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>90</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>90</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table>			期	目標	実績	計画当初	0	0	H28	0	0	H29	40	44.4	H30	55	90	R1	90	90	R2	90	90
		期	目標				実績																				
計画当初	0	0																									
H28	0	0																									
H29	40	44.4																									
H30	55	90																									
R1	90	90																									
R2	90	90																									
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
-	90	90																									

評価

評価委員会評価

A

・女性職員によるFMかみのかわの実施は喜ばしい。若手職員によるオフサイトミーティングの場も設けると良いのではないかと。
・女性目線での取り組みという視点は評価できる。今後も継続してもらいたい。
・ミーティングの頻度は月1回程度でよいと思う。事前にテーマを決め、年間スケジュールを立てて管理し、検証も行うと良い。

P (計画)	削除	策(シムカ)	芯下		基本的方向		財政の健全化			
	事項	職員給与の適正化			取組区分		第2期プランから継続			
	現状(当初)と課題	国・県の情報を収集・把握し人事院勧告に基づき給与改定を実施している。新たに地公法改正により人事評価制度構築による給与への反映が平成28年度から実施されることから評価精度を高める必要がある。								
	取組の内容	① 給与水準の適正化の維持								
		人事院勧告に基づく給与改定を実施する。人事評価制度により職務・職責と実績を反映する給与制度の構築を目指す。								
	数値目標・実施期限等	項目名	単位	当初(平成28年度)			目標(平成32年度)			
		・人事院勧告に基づく給与改定の実施 ・平成28年度からの新たな人事評価制度実施による給与への反映		給与水準は各年度の人勧などに基づくもので年度数値指標はなし。			給与水準は各年度の人勧などに基づくもので年度数値指標はなし。			
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度			
	人事院勧告に基づく給与改定の検討・実施		検討・実施							
	人事評価制度の給与等人事管理に反映		実施							
事業実施した場合、想定できる効果	公平で適正な給与水準を確保する(公務員の給与水準を民間給与水準と均衡させる。)ことができる。									

P (計画)	主要施策(シムカ)	芯下	基本的方向			財政の健全化																					
	取組事項	経費の節減合理化			取組区分		新規																				
	現状(当初)と課題	財政構造の弾力性を示す指標である経常収支比率が、平成23年度以降90%以上となっており、本町の財政は硬直化している。そのため、社会経済や行政需要の変化に適切に対応していくための施策に充てる財源が少なくなっている。																									
	取組の内容	① 経常収支比率の改善																									
		経常的に支出される経費のうち、一般財源で賄われる経費を削減する。また、経常的な収入である使用料・手数料の見直しを行い増収を図る。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	使用料・手数料の見直し		実施	実施	実施																						
	当初予算編成における経常経費の削減		実施	実施	実施	実施																					
	補正予算編成における経常経費の抑制・削減		実施	実施	実施	実施	実施																				
	事業実施した場合、想定できる効果		社会経済や行政需要の変化に適切に対応できるよう、財政構造を柔軟な状態に改善できる。																								
D (実行)	今年度取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
		① 使用料・手数料の見直し ② 当初予算編成における経常経費の削減		① 令和元年10月予定の消費税率引上げに向け、税負担の円滑かつ適正な転嫁を目的とした公共施設使用料の改正と共に、原価、維持管理費及び受益者負担に着目した使用料の見直しにより、1施設において改正を行った。 ② 予算査定においては、効果と実施可能性を勘案し削減の検討を行った。																							
C (評価)	進捗状況		D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい。																								
	自己評価	良かった点	使用料の見直しについては、漏れなく円滑かつ適正な転嫁を図ることができた。																								
		悪かった点	経常経費の削減については、既存事務事業ゼロベースでの見直し、新規事業の財源捻出のための既存事業の廃止・整理縮小の上での要求を求めたが、機能する仕組みづくりには至らなかった。																								
A (改善)	実施予定・変更点など		経常経費の削減については、予算編成事務全体の点検を行い、各課等の主体的な見直し推進を図ると共に、査定・調整に充てる時間を確保できるようなスケジュール等を含め、改善に向け取り組んでいく。																								
P / C	数値目標・実績	項目名		単位		<table border="1"> <caption>経常収支比率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>90</td> <td>91.1</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>90</td> <td>70.1</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>90</td> <td>96.3</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>90</td> <td>64.9</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>90</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>90</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	90	91.1	H28	90	70.1	H29	90	96.3	H30	90	64.9	R1	90	90	R2	90	90
		年度	目標 (%)	実績 (%)																							
		計画当初	90	91.1																							
H28	90	70.1																									
H29	90	96.3																									
H30	90	64.9																									
R1	90	90																									
R2	90	90																									
経常収支比率		%																									
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
91.1 (平成26年度 決算)	90.0未満 (平成31年度 決算)	64.9																									
評価	評価委員会評価	・体育館やグラウンド・テニスコートの使用料は町民の健康にもつながるため、使用料金は利用しやすいよう最低限に抑えてもらいたい。 ・指定管理施設の利用料金増は問題ないと思う。施設を利用する人の評価で適正な料金と判断されれば良い。 ・料金設定に関して施設の利用者の満足度を把握するためアンケートを実施したほうが良い。																									
	B																										

P (計画)	主要施策(シカ)		芯下		基本的方向		財政の健全化																								
	取組事項		経費の節減合理化			取組区分		第2期プランから継続																							
	現状(当初)と課題		現在の分別収集を導入した当初、家庭系ごみは減少したものの、その後の家庭系ごみは増加傾向にある。 ごみの分別や減量化に対する関心が低下しているため、そういった町民への働きかけが必要である。																												
	取組の内容		② 可燃ごみ及び資源物への分別と生ゴミの水切りの周知・徹底 水切りネットを配布し、生ゴミの水切りの推奨と重要性の周知を行う。 ごみ処理の現状を周知することで、分別の必要性と重要性を感じてもらう。 ごみステーションを巡回監視し、ごみ分別について指導する。																												
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																							
	水切りネットの配布			実施																											
	分別効果の周知・徹底			実施																											
	ごみステーションの巡回・監視・指導			実施																											
事業実施した場合、想定できる効果		ごみ処分費用の低減。資源物売払い額の増加。																													
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)			取組(何を)																									
			①自治会等 ②イベント参加町民 ③小学4年生			①ごみの減量及びごみの分別に関する説明会を実施した。 ②町民スポレク祭及び健康福祉まつりで水きりネットを配布した。 ③ごみの減量及びごみの分別に関する出前授業を実施した。																									
C (評価)	自己評価	進捗状況	B:目標達成に向けて順調に進捗している。																												
		良かった点	自治会を対象としてごみの減量及びごみの分別に関する説明会を実施できた。小学4年生を対象としてごみの減量に関する出前授業を実施できた。直接町民に話す機会を設けることは、効果が上がるものと考えます。																												
		悪かった点	広報にごみ減量に関する記事を掲載できなかった。																												
(改善)	A	実施予定・変更点など	自治会等で説明会を実施する。 イベント等で水きりネットを配布する。 広報にごみ減量に関する記事を掲載する。																												
P / C	数値目標・実績		項目名	単位		<table border="1"> <caption>家庭系ごみ年間量 ※燃やせるごみのみ</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (t/年)</th> <th>実績値 (t/年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>5,901</td> <td>5,901</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>5,863</td> <td>6,229</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>5,825</td> <td>6,092</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>5,787</td> <td>5,931</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>5,749</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>5,707</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					年度	目標値 (t/年)	実績値 (t/年)	計画当初	5,901	5,901	H28	5,863	6,229	H29	5,825	6,092	H30	5,787	5,931	R1	5,749		R2	5,707	
			年度	目標値 (t/年)	実績値 (t/年)																										
			計画当初	5,901	5,901																										
			H28	5,863	6,229																										
H29	5,825	6,092																													
H30	5,787	5,931																													
R1	5,749																														
R2	5,707																														
家庭系ごみ年間量 ※燃やせるごみのみ	t/年																														
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																													
5,901 (平成26年度 実績)	5,707	5,931																													
評価	評価委員会評価		・ゴミ量を減らすため、水切り徹底の周知のさらなる推進・指導を実施してもらいたい。 ・家庭から出る食品ロスの面からも周知したほうが良い。 ・ゴミ量が減ることにより、いくら費用が抑えられるのか広く周知し、PRしていくことも検討してもらいたい。																												
	B																														

P (計画)	主要施策(シカ)	芯下	基本的方向	財政の健全化		
	取組事項	経費の節減合理化		取組区分	新規	
	現状(当初)と課題	水道料金等の支払いについては、コンビニ納付の導入により口座振替の利用率が年々減少してきている。 既使用者の納付方法は固定化しているため、新規使用者に対して働きかけを行うことが有効である。				
	取組の内容	③ 水道料金等の支払いにおける口座振替利用の促進 水道の新規使用者に対して、窓口等において料金支払いの口座振替利用を促進し、料金収納に係る経費の節減を図る。				
	取組スケジュール	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	新規使用者への周知 (周知方法の検討・改善)					
	事業実施した場合、想定できる効果	料金収納に係る経費を節減することにより、経営の安定が図れる。				
D (実行)	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)			
	上下水道使用者		<ul style="list-style-type: none"> ・窓口や電話において(特に新規使用者に対して)口座振替の利用案内をした。 ・町広報やHP、検針票等に「口座振替のすすめ」を記載した。 ・口座振替希望で手続き未済の者に個別に通知をした。 			
C (評価)	自己評価	進捗状況	D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい。			
		良かった点	課題への取組を通して、職員の経費削減に対する意識を高めることができた。 町広報への掲載及び個別通知により、口座振替推進のPRの幅を広げることができた。			
		悪かった点	コンビニ納付の利便性が大きいと、口座振替利用率の向上に繋げることが難しかった。			
(改善)	実施予定・変更点など	<ul style="list-style-type: none"> ・納付書払いのお客様に対して、口座振替勧奨のダイレクトメールを送付する。 ・町広報に、口座振替により手数料が削減される旨の記事を掲載する。 				
P/C	数値目標・実績	項目名	単位			
		口座振替利用率【新規使用者】	%			
		計画策定時 現況値	目標値 (R2)			実績値 (H30)
		81.7 (H27.7末現在の 使用者 全体の納付実績)	85			81.3

評価	評価委員会評価	C	<ul style="list-style-type: none"> ・新規使用者に対し、費用的な負担を説明し、口座振替にするよう強くPRを行うように望む。 ・高い口座振替率であり努力されていることが分かる。今後も継続してもらいたい。

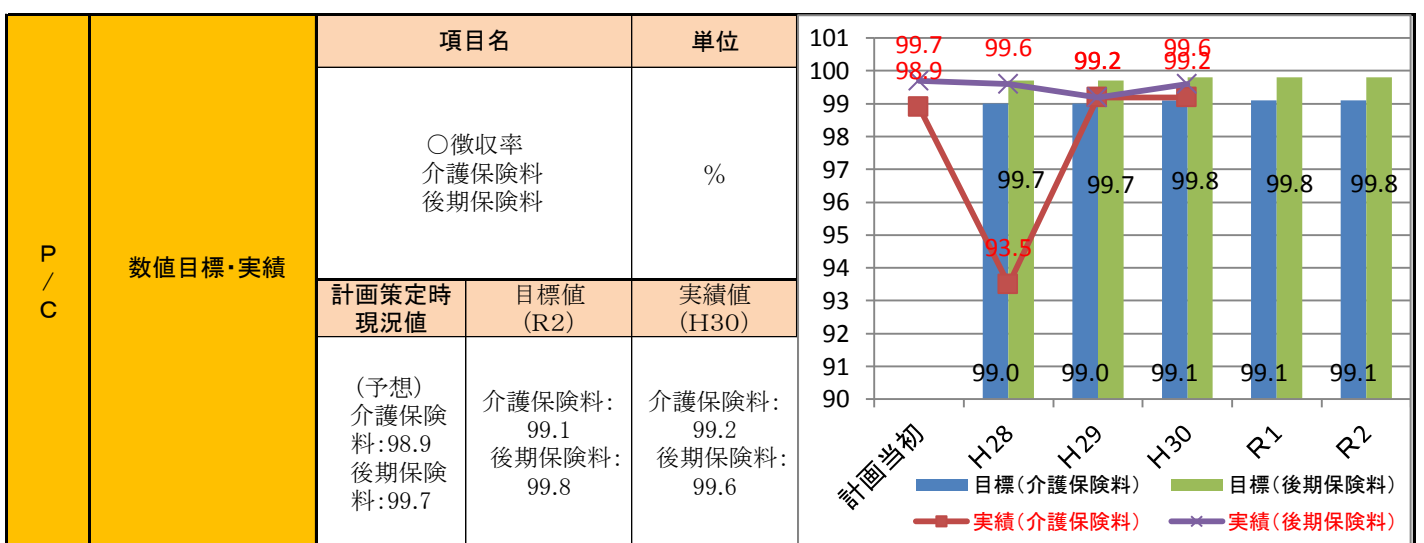
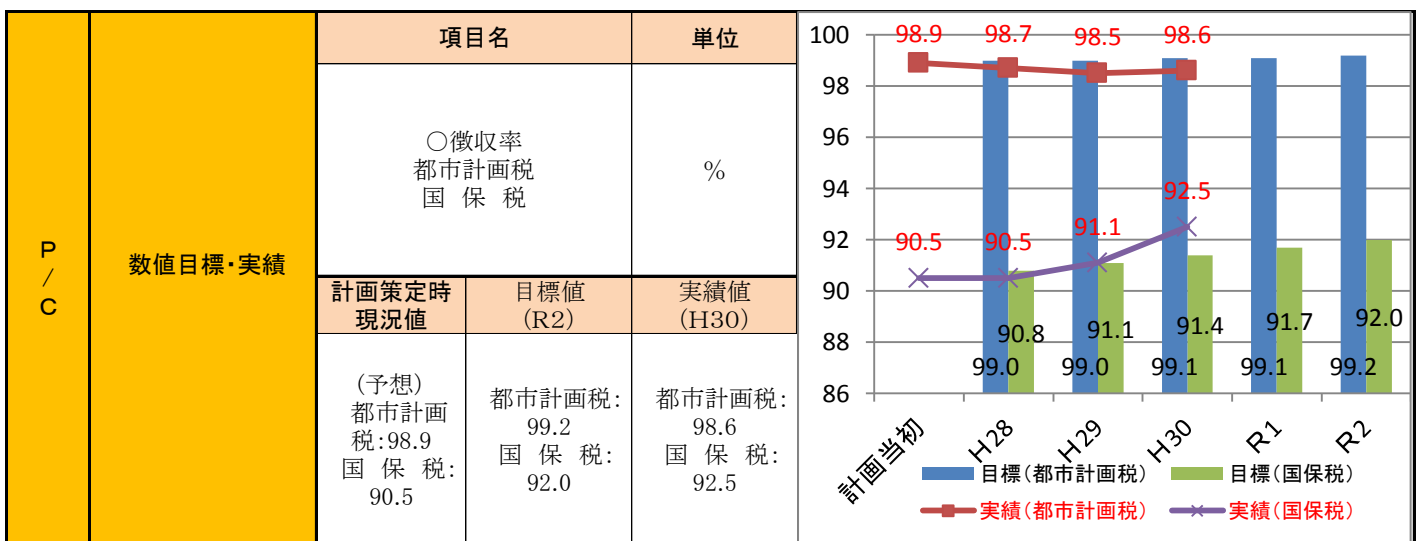
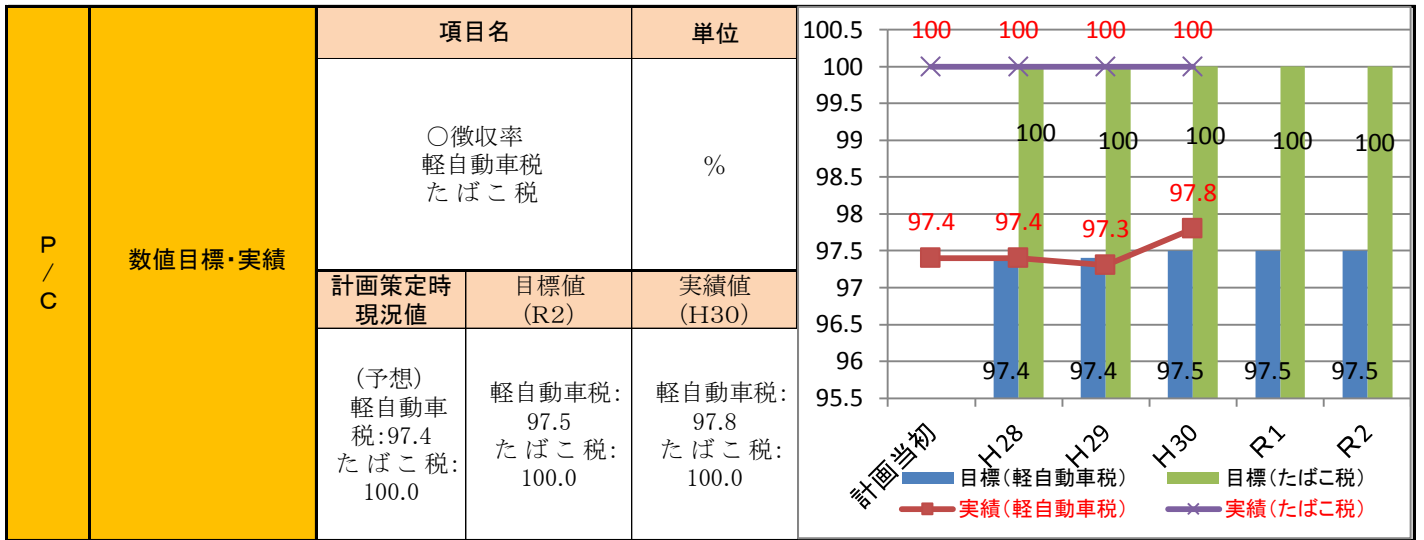
P (計画)	主要施策(シカ)		芯下	基本的方向	財政の健全化																							
	取組事項		経費の節減合理化		取組区分	第2期プランから継続																						
	現状(当初)と課題		公共下水道と比較すると普及率は低くなっており、事業の経営の安定を図るために接続率を向上させる必要がある。																									
	取組の内容		④ 農業集落排水の接続率の向上 未接続世帯の訪問及び、自治会回覧や町ホームページ等で普及率の向上を図る。																									
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	未接続世帯の訪問			実施																								
	町HPや自治会回覧等による周知			実施																								
	事業実施した場合、想定できる効果		接続者が増えることにより収益増加につながり、経営の安定が図れる。																									
	D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)	取組(何を)																							
				農業集落排水の未接続者	<ul style="list-style-type: none"> 未接続世帯への戸別訪問 加入案内パンフレットの刷新、町ホームページへの掲載 広報紙への接続案内の掲載 																							
C (評価)	自己評価	進捗状況	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。																									
		良かった点	事業完了からの経年により住民の関心が薄れてきているため、地元役員との戸別訪問等で事業の必要性等を周知することが出来た。																									
		悪かった点	戸別訪問については不在により、再訪が必要となったりと、時間を要した。																									
(改善) A	実施予定・変更点など		<ul style="list-style-type: none"> 接続率向上のため接続工事費の融資あっせんに対して限度額の増額などの検討を図る。 新規加入世帯に対して、期間限定で使用料の減免などの検討を図る。 																									
P / C	数値目標・実績		項目名	単位	<table border="1"> <caption>接続率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>68.1</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>73</td> <td>72.6</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>75</td> <td>74.0</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>77</td> <td>75.2</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>78.5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>80</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	-	68.1	H28	73	72.6	H29	75	74.0	H30	77	75.2	R1	78.5	-	R2	80	-
	年度	目標 (%)	実績 (%)																									
	計画当初	-	68.1																									
	H28	73	72.6																									
H29	75	74.0																										
H30	77	75.2																										
R1	78.5	-																										
R2	80	-																										
		接続率	%																									
	計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
	68.1 (平成26年度 末実績)	80	75.2																									

評価	評価委員会評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 後継者のいない世帯での接続は課題である。 訪問しても接続しない世帯の理由を分析し、浄化槽の更新タイミングなどで再度働きかけを行うなど継続した依頼を行ってほしい。 一般的に農集排と水道の工事を同時に行うことが多いため、上水道の係と連携して接続率向上に努めてほしい。

P (計画)	主要施策(シカ)	芯下	基本的方向	財政の健全化																							
	取組事項	経費の節減合理化		取組区分	第2期プランから継続																						
	現状(当初)と課題	県内の他市町と比較しても普及率は低くなっており、水道事業の経営の安定を図るために普及率を向上させる必要がある。																									
	取組の内容	⑤ 水道普及率の向上																									
		水道未加入者宅を訪問したり、町ホームページ等で町水道の安全性をPRし、普及率の向上を図る。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	水道未加入者宅の訪問		実施																								
	町HPや広報誌による周知		実施																								
	事業実施した場合、想定できる効果		水道利用者が増えることにより収益増加につながり、経営の安定が図れる。																								
	D (実行)	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
水道未加入者		<ul style="list-style-type: none"> ・訪問により、普及率の向上を図った。 ・訪問時や各種会議・イベント時にペットボトルの配布によるPRを行った。 ・広報やホームページの掲載によりPRを行った。 																									
C (評価)	自己評価	進捗状況	B:目標達成に向けて順調に進捗している。																								
		良かった点	新たな取組の検討により、H31年度からの加入金減免制度の実施に至った。																								
		悪かった点	安心・安全性など水道水のメリットに関するPR不足を感じた。																								
(改善) A	実施予定・変更点など	<ul style="list-style-type: none"> ・H31年度より井戸水から水道に切り替える家屋を対象に加入金の減免を実施する。 ・水道水の安心・安全性などのメリット面の周知を図る。 																									
P/C	数値目標・実績	項目名	単位	92 91 90 89 88 87 86 85 84																							
		普及率	%	<table border="1"> <caption>普及率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>86.6</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>87.5</td> <td>87.7</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>88.5</td> <td>88.2</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>89.5</td> <td>89.5</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>90.5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>91</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標	実績	計画当初	-	86.6	H28	87.5	87.7	H29	88.5	88.2	H30	89.5	89.5	R1	90.5	-	R2	91	-
		年度	目標	実績																							
		計画当初	-	86.6																							
H28	87.5	87.7																									
H29	88.5	88.2																									
H30	89.5	89.5																									
R1	90.5	-																									
R2	91	-																									
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
86.6 (平成26年度 末実績)	91	89.5																									

評価	評価委員会評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者のいない世帯での接続は大きな課題である。 ・南部地区への理解向上の働きかけを引き続き行ってもらいたい。 ・一般的に農集排と水道の工事を同時に行うことが多いため、農集排の係と連携して接続率向上に努めてもらいたい。

P (計画)	主要施策(シнка)	芯下	基本的方向	歳入の確保・施設の有効利用									
	取組事項	町税等の徴収率の向上	取組区分	第2期プランから継続									
	現状(当初)と課題	町県民税の特別徴収が一斉指定され、納税義務者が個人から会社になったため一つの会社の未納により複数人の滞納者が発生する事が予想される。											
	取組の内容	① 現年度課税分の年度内完納											
		現年度課税分の年度内の完納を目指し、納期限経過後の督促・催告を強化する。特に町県民税特別徴収事業所への滞納整理を強化する。											
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度						
	督促・催告状発送		実施										
	滞納事業所の調査(財産・居所)		調査										
	事業所への訪問(滞納整理)		実施										
	事業実施した場合、想定できる効果		町県民税の特別徴収の徴収率を確保することにより、過年度滞納者が過年度分の分納に専念することとなり、滞納額の減少につながる。										
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)	取組(何を)										
		特徴事業所滞納者	<ul style="list-style-type: none"> ・督促状、催告書送付 ・電話催告、かみたんメール発信(納期限、納付勧奨) ・財産調査 ・差押(給与、預金) 搜索 公売 ・特別滞納整理(臨戸訪問)、特徴事業所訪問 										
C (評価)	自己評価	進捗状況	B:目標達成に向けて順調に進捗している。										
		良かった点	係長が進捗管理を行い、係員が2班に分かれて滞納処分を行った。県税との協同により、給与差押、預金差押件数増加。合同公売1回、インターネット公売1回実施。分納誓約者のリスト管理を行い納税状況の追跡調査を行った。課税状況や居住状況の確認が必要な者については臨戸訪問を行った。県税派遣を通して情報交換を行った。										
		悪かった点	確定申告による繁忙期前に滞納処分を終わらせるようにスケジュールの見直しを行うこと。										
A (改善)	実施予定・変更点など	催告の通知文、用紙、封筒を見直し、目にとまる通知を作成する。介護保険、後期高齢医療保険料の特徴捕捉前の普通徴収分について、周知文と納付書を作成、送付。県税派遣を通して、他市町との情報交換時に積極的に意見交換をする。今年度は係1名減であり、班体制が組めないため、係長が年間スケジュールから打ち合わせを密に行い進捗管理する。											
P/C	数値目標・実績	項目名	単位										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>計画策定時 現況値</th> <th>目標値 (R2)</th> <th>実績値 (H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(予想) 町民税: 98.6</td> <td>町民税: 98.9</td> <td>町民税: 99.2</td> </tr> <tr> <td>固定資産 税:98.9</td> <td>固定資産税: 99.2</td> <td>固定資産税: 98.7</td> </tr> </tbody> </table>	計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)	(予想) 町民税: 98.6	町民税: 98.9	町民税: 99.2	固定資産 税:98.9	固定資産税: 99.2	固定資産税: 98.7		
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)											
(予想) 町民税: 98.6	町民税: 98.9	町民税: 99.2											
固定資産 税:98.9	固定資産税: 99.2	固定資産税: 98.7											
評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ人が様々な税を滞納していると思うが、徴収できるよう、滞納者にあわせて、納税相談をしっかりと行ってほしい。 ・国保税は目標を上回っているが率が低いいため、徴収率を向上させることが課題として見える。 											
	B												



P (計画)	主要施策(シカ)	芯下	基本的方向	歳入の確保・施設の有効利用																							
	取組事項	町税等の徴収率の向上	取組区分	新規																							
	現状(当初)と課題	平成26年度の個人住民税の未申告者は、当初558名であったが、3回の催告を実施した結果、130名程度に減少させることができた。 しかし、公平で適正な賦課徴収を行うためには、更なる減少を図ることが必要である。																									
	取組の内容	② 個人住民税未申告者の減少 納税に対する町民の理解と協力を得るため、継続して催告や申告納税相談を実施し、未申告者の減少を図る。																									
	取組スケジュール	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
	催告・申告納税相談	実施																									
	事業実施した場合、想定できる効果	申告漏れを防ぎ、公平で適正な賦課徴収を行うことにより、課税額の増額が見込める。																									
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)	取組(何を)																								
		個人住民税未申告者	未申告者の抽出、名簿作成、通知送付(年3回)、臨戸訪問による申告受付(年1回)																								
C (評価)	進捗状況	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。																									
	自己評価	良かった点	電算システムの伝言板機能を活用し、未申告者が他課・係に来庁した際に、住民税係へ案内してもらい、本人及び親族に直接、説明・申告受付等ができるようにした。他課・係との連携を図れたことにより、未申告者数の減少につながった。																								
		悪かった点	臨戸訪問しても、不在で会えない方等、申告につながらなかったケースが残った。																								
(改善) A	実施予定・変更点など	<ul style="list-style-type: none"> ・臨戸訪問による申告の説明・受付を重点的に行う。 ・国民健康保険税等の税額変更が見込まれる対象者を重点的に訪問する。 ・国・県・町の3税の連携については、令和元年度法人住民税未申告について、部会を立ち上げ、情報を共有し、その減少に努めている。個人住民税の部会の立ち上げは未定であるが、引き続き、税務署・県税事務所との連携を密に図り未申告者の減少につなげる。 																									
P / C	数値目標・実績	項目名	単位	<table border="1"> <caption>数値目標・実績の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>80</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>82</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>85</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>88</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>90</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	-	76	H28	80	78	H29	82	82	H30	85	82	R1	88	-	R2	90	-
		年度	目標 (%)				実績 (%)																				
		計画当初	-				76																				
		H28	80				78																				
H29	82	82																									
H30	85	82																									
R1	88	-																									
R2	90	-																									
当初未申告者数に対する催告等により申告を行った者の割合	%																										
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
76	90	82																									

評価	評価委員会評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・未申告者に対する地道な訪問の努力は素晴らしい。今後も継続してもらいたい。 ・税務署・県との連携を強化して更なる努力をして申告者の割合を向上させてもらいたい。 ・未申告催告者が計画当初の558人からH30は303人となっており、未申告催告者の分母が減っていることは大変評価できる、今後も継続してもらいたい。

P (計画)	主要施策(シムカ)	芯下	基本的方向		歳入の確保・施設の有効利用																						
	取組事項	町税等の徴収率の向上		取組区分		新規																					
	現状(当初)と課題	課税客体の把握																									
	取組の内容	③ 課税客体の的確な把握と適正な課税																									
		課税誤り、賦課漏れ、滅失漏れを防止するために、町内の土地、家屋を巡回、調査する。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	調査・巡回		実施																								
事業実施した場合、想定できる効果	地方分権が進む中、自主財源を確保し、行政サービスの向上につなげる。																										
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
		町内の土地、家屋		「土地」 農地転用申請状況の確認、現地調査により、土地の利用状況の変化を把握した。 「家屋」 建築確認申請状況の確認、現地調査により、賦課漏れのないように新築家屋を把握した。																							
C (評価)	進捗状況		B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																								
	自己評価	良かった点	未調査路線が多い地域を集中的に調査することにより効率的に巡回することができた。																								
		悪かった点	細い路地や袋小路に入ってしまうことがあるため、ニューモビリティを利用した方が良い場所があった。																								
A (改善)	実施予定・変更点など		引き続き、未調査路線について調査を行う。 現地調査を行う際には、地番図や航空写真を活用し、課税客体の把握に努める。																								
P / C	数値目標・実績	項目名		単位		<table border="1"> <caption>調査・巡回率(路線数)の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>23.2</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>30</td> <td>26.7</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>60</td> <td>60.3</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>80</td> <td>85.1</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>90</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>100</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	-	23.2	H28	30	26.7	H29	60	60.3	H30	80	85.1	R1	90	-	R2	100	-
		年度	目標 (%)	実績 (%)																							
		計画当初	-	23.2																							
		H28	30	26.7																							
H29	60	60.3																									
H30	80	85.1																									
R1	90	-																									
R2	100	-																									
調査・巡回率(路線数)		%																									
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
23.2	100 (1,085路線)	85.1																									

評価	評価委員会評価	・地道なつづし作業で大変だと思うが、効果が見えるため頑張してほしい。 ・計画通りの完了を期待している。
	A	

P (計画)	主要施策(シカ)	芯下	基本的方向	歳入の確保・施設の有効利用																							
	取組事項	町税等の徴収率の向上		取組区分	新規																						
	現状(当初)と課題	3ヶ月以上の未納者(滞納者)が固定化しており、定期的に家賃等を徴収することが困難な状況である。その解消と徴収率を向上させていく対策の検討が必要。																									
	取組の内容	④ 町営住宅家賃及び駐車場使用料の徴収率向上を図るための改善																									
		督促状等の送付や電話・訪問により、家賃使用料等の未納の解消を図る。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	新規入居者への周知(周知方法の改善)		実施 検討	実施																							
	滞納者への督促状の送付・連絡・話し合いの時期及び内容の検討		実施 検討	実施																							
	長期滞納者への差し押さえの検討		実施 検討	実施																							
	事業実施した場合、想定できる効果		歳入の有効な活用ができる。																								
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
		滞納者(現年度・過年度)		<ul style="list-style-type: none"> 滞納者及び連帯保証人への滞納状況の通知及び請求 納付漏れ、口座振替不能者への早期対応 電話、直接訪問での督促 																							
C (評価)	進捗状況		C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。																								
	自己評価	良かった点	連帯保証人への請求等により、長期滞納の解消の兆しが見えた。																								
		悪かった点	連絡が取れない者や、納付計画を立てたにも関わらず履行されない者がいた。																								
(改善) A	実施予定・変更点など		<ul style="list-style-type: none"> 通知、電話連絡、直接訪問等の強化 滞納者の生活時間の把握と、それに合わせた業務時間外等での対応の検討 																								
P / C	数値目標・実績		項目名	単位	<table border="1"> <caption>徴収率実績</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>96.4</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>97</td> <td>98.1</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>98</td> <td>97.7</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>98</td> <td>93.4</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>98</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>98</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		時期	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	-	96.4	H28	97	98.1	H29	98	97.7	H30	98	93.4	R1	98	-	R2	98	-
			時期	目標 (%)			実績 (%)																				
			計画当初	-			96.4																				
			H28	97			98.1																				
H29	98	97.7																									
H30	98	93.4																									
R1	98	-																									
R2	98	-																									
翌年度の5月31日(出納閉鎖まで)の家賃及び、駐車場使用料の徴収率	%																										
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
96.4 (3ヶ年平均)	98	93.4																									

評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な電話連絡や訪問を行い、少しでも回収できるよう努力をしてもらいたい。 税部門とも連携し滞納者に関する情報共有や、協力し回収に努めてもらいたい。
	B	

P (計画)	主要施策(シムカ)	芯下	基本的方向		歳入の確保・施設の有効利用																							
	取組事項	広告収入の増加		取組区分		新規(取組再設定)																						
	現状(当初)と課題	現在、広報かみのかわ及び町ホームページに企業等の広告を募集・掲載し、財源の確保を図っているが、より多くの企業に広告の掲載できることを周知し、活用してもらおう。																										
	取組の内容	① 広報かみのかわ等広告掲載事業の推進																										
		商工会や町内の企業などに赴き、広告掲載についてPRを行い財源の確保を図る。																										
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
	商工会や町内企業への訪問		実施																									
	町広報紙やホームページでのPR		実施																									
事業実施した場合、想定できる効果		広報かみのかわ及び町ホームページに企業等の広告を掲載し、広告収入の増により財源の確保を図る。																										
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																								
		①町内の事業者 ②広告掲載者		①町内企業を訪問し、広告掲載を依頼 ②広告掲載期間の延長を依頼																								
C (評価)	進捗状況		C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。																									
	自己評価	良かった点	新規掲載する事業者があった。																									
		悪かった点	継続しない事業者がいたため、広告金額が減少してしまった。																									
(改善) A	実施予定・変更点など		広報・ホームページともに広告事業を継続して実施し、広告を掲載してくれる事業者の募集を図りたい。																									
P / C	数値目標・実績	項目名	単位		<table border="1"> <caption>数値目標・実績の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (円)</th> <th>実績値 (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>510,000</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>600,000</td> <td>790,000</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>620,000</td> <td>615,000</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>635,000</td> <td>460,000</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>645,000</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>665,000</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標値 (円)	実績値 (円)	計画当初	-	510,000	H28	600,000	790,000	H29	620,000	615,000	H30	635,000	460,000	R1	645,000	-	R2	665,000	-
		年度	目標値 (円)	実績値 (円)																								
		計画当初	-	510,000																								
		H28	600,000	790,000																								
H29	620,000	615,000																										
H30	635,000	460,000																										
R1	645,000	-																										
R2	665,000	-																										
広告収入の増加	円																											
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																										
-	665,000	460,000																										

評価	評価委員会評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町の広告収入額など調査しておく必要がある。 ・財源確保のため、広告収入の増加に努めてもらいたい。

P (計画)	主要施策(シカ)		芯下		基本的方向		歳入の確保・施設の有効利用																									
	取組事項		財産の有効活用			取組区分		第2期プランから継続																								
	現状(当初)と課題		「公有財産の運用方針」に基づき、未利用財産の売却、再利用の調査検討を行っている。未利用財産は境界確認困難地、河川区域内等の売却・再利用が困難である。																													
	取組の内容		① 行政財産の見直し 未利用財産を有効に運用できるよう精査、検討を行い、財源の確保を図る。																													
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																								
	未利用財産の調査			調査																												
	公有財産検討委員会による審議			審議																												
	未利用財産の売却・再利用			売却・再利用																												
	事業実施した場合、想定できる効果		財源の確保が図れる。																													
	D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)			取組(何を)																									
		未利用財産(土地)			<ul style="list-style-type: none"> ・隣接地権者に聞取り調査を行う。 ・未利用財産の隣接地者に売払い交渉を行う。 																											
C (評価)	進捗状況		C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。																													
	自己評価	良かった点	意向確認の結果、隣接地権者に1物件(386㎡)を売払いをすることができた。																													
		悪かった点	傾斜地及び河川区域内により売却・再利用が困難である。																													
(改善) A	実施予定・変更点など		旧消防団3-2詰所、旧殿山配水場等の未利用公有地の売却又は有効活用の検討を行う。																													
P / C	数値目標・実績		項目名		単位		<table border="1"> <caption>未利用財産の状況推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>未利用財産箇所数</th> <th>未利用財産面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>21</td> <td>16169.8</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>20</td> <td>15407.8</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>22</td> <td>16461.2</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>23</td> <td>16847.2</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>22</td> <td>16461.2</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>					年度	未利用財産箇所数	未利用財産面積	計画当初	21	16169.8	H28	20	15407.8	H29	22	16461.2	H30	23	16847.2	R1	22	16461.2	R2	-	-
			年度	未利用財産箇所数	未利用財産面積																											
			計画当初	21	16169.8																											
			H28	20	15407.8																											
H29	22	16461.2																														
H30	23	16847.2																														
R1	22	16461.2																														
R2	-	-																														
行政財産の見直し (長期的な目標としては、0件が目標)		件																														
計画策定時	現況値	目標値(R2)	実績値(H30)																													
21		-	23																													

評価	評価委員会評価	
	B ・狭小地など売払いが難しい土地の活用方法の検討を進めてもらいたい。	

P (計画)	主要施策(シカ)	芯下	基本的方向	歳入の確保・施設の有効利用			
	取組事項	財産の有効活用		取組区分	第2期プランから継続		
	現状(当初)と課題	「公用車更新計画」に基づき車両の更新を行っている。 今後も公用車(特にバス等の特殊車両)の使用状況等の調査検討を行い、実情に即した「公用車更新計画」の更新が必要である。					
	取組の内容	② 公用車の効率的な更新					
		業務形態に対応した車両の効率的な配置・運用を行い、経費の節減及び管理の適正化を図る。					
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	公用車更新計画の更新		更新				
	使用状況等の調査検討		調査検討				
	車両の更新		更新				
	事業実施した場合、想定できる効果		車両台数の削減及び車両管理費の節減が図られる。				
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)			
		消防団本部車 エルブランド(8人乗り)		消防団本部車 セレナ(8人乗り)に更新した。			
C (評価)	進捗状況		B:目標達成に向けて順調に進捗している。				
	自己評価	良かった点	車両更新が計画どおり進み、車両購入費及び維持費の削減を図ることが出来た				
		悪かった点	特になし				
(改善) A	実施予定・変更点など		令和元年度は、環境にやさしく業務目的に適応した2tダンプ車両の更新を行う。 環境に配慮した車両を更新を進める。				
P / C	数値目標・実績	項目名	単位				
		配置車両台数	台				
		計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)			
		33 (内)軽自動車 6 (平成27年 度)	33 (内)軽自動車8	33			

評価	評価委員会評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大型・中型バスの所有については、リースや業務委託など費用の面での検討の他、災害時の対応など様々な視点から考えた上で、町民の利便性が損なわれないように検討してもらいたい。 ・町の各種団体などが利用しており、バスの稼働率は高いことは素晴らしい、運転手・バス本体への評価も高い。

P (計画)	主要施策(シカ)	芯下	基本的方向		歳入の確保・施設の有効利用																						
	取組事項	公共施設マネジメントの推進		取組区分		新規																					
	現状(当初)と課題	本町の橋梁は、架設時期が集中しているため、今後老朽化による改修や架替えの経費が増加することが予想される。																									
	取組の内容	① 橋梁長寿命化計画に基づく維持管理																									
		定期的な点検などにより、橋梁の現状を把握し、予防的な修繕によって道路のネットワークの安全性、信頼性を向上させ、橋梁の長寿命化と修繕費用の縮減を図る。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	橋梁点検業務		実施(H23年度)	実施																							
	長寿命化計画策定		実施(H24年度)	実施																							
	長寿命化修繕工事		実施(H25年度)			実施																					
	事業実施した場合、想定できる効果		長寿命化計画により事業の均一化が図れる。																								
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
		橋梁長寿命化計画による修繕事業		H30年度は、前年度の点検結果をもとに、計画再策定を実施し、R1年実施予定の修繕詳細設計のために交付金の要望をおこなった。																							
C (評価)	進捗状況		B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																								
	自己評価	良かった点	早めの処置により、軽微な修繕工事で良好な状態を維持できていることが確認できた。Ⅲ判定の橋梁(1橋)についても、R1年設計・R2年工事と予算の平準化を図りながら実施できる見込み。																								
		悪かった点	特になし																								
(改善) A	実施予定・変更点など		Ⅲ判定の橋梁については、次年度交付金事業の要望を行い、設計修繕を実施する予定。R2年の工事実施に向けて、詳細設計、交付金要望を行う。 今後は、点検費用の平準化も視野に入れて、点検計画を考えていく必要がある。																								
P/C	数値目標・実績	項目名		単位		<table border="1"> <caption>橋梁修繕数推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>6.5</td> <td>6.5</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	計画当初	6	6	H28	6	6	H29	6	6	H30	6	6	R1	6.5	6.5	R2	7	7
		年度	目標	実績																							
		計画当初	6	6																							
		H28	6	6																							
H29	6	6																									
H30	6	6																									
R1	6.5	6.5																									
R2	7	7																									
修繕橋梁数		橋																									
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
6	7	6																									

評価	評価委員会評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・分散化されることは大変いいことだと思う。今後も定期的な診断を継続し、少しでも長く利用できるよう取り組んでもらいたい。 ・国の補助金等をうまく活用し、維持管理や架け替えを行ってもらいたい。

P (計画)	主要施策(シカ)	伸化	基本的方向		今ある価値の伸化																						
	取組事項	イベントの活性化		取組区分		新規																					
	現状(当初)と課題	毎夏ひまわりの開花時期に合わせて「サンフラワー祭り」を開催し、町内外からの来場者を集めている。 サンフラワー祭りの知名度向上に努める必要がある。																									
	取組の内容	① サンフラワー祭りの活性化																									
		様々なメディアに働きかけて、イベントのPRを促進させる。 また、駐車場の確保やイベントを充実させるための工夫を検討する。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	PR活動の拡充、検討		実施																								
イベント内容の検討		実施																									
事業実施した場合、想定できる効果		町の魅力の向上と交流人口の増加が図れる。																									
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
		町民、観光客		○多種の広告媒体により回数を増やしたPRを実施 ・メディア(新聞)の活用 ・無料のイベント情報配信サイトの活用 ○フォトスポットを設置した。																							
C (評価)	進捗状況		B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																								
	自己評価	良かった点	予算をかけずに効果の高いPRを実施できた。																								
		悪かった点	去年は、想定を超える猛暑であったため、猛暑向けの対策が充分ではなかった。																								
(改善) A	実施予定・変更点など		効果が認められた多種の広告媒体によるPRを今後も継続していく。 フォトスポットが好評であったため拡充し、フォトコンテストも開催する予定。																								
P / C	数値目標・実績	項目名		単位		<table border="1"> <caption>サンフラワー祭り来場者数実績</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>17,000</td> <td>17,000</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>17,500</td> <td>17,500</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>18,000</td> <td>20,000</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>19,000</td> <td>20,000</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>21,000</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>22,000</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	計画当初	17,000	17,000	H28	17,500	17,500	H29	18,000	20,000	H30	19,000	20,000	R1	21,000	-	R2	22,000	-
		年度	目標	実績																							
		計画当初	17,000	17,000																							
		H28	17,500	17,500																							
H29	18,000	20,000																									
H30	19,000	20,000																									
R1	21,000	-																									
R2	22,000	-																									
サンフラワー祭り来場者数		人																									
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
17,000 (H26年実績)	22,000	20,000																									

評価	評価委員会評価	B	・混雑時の駐車場確保・誘導を安全に実施し、更なる集客に努めてもらいたい。 ・せっかく多くの人々が町内・外から集まっているので、他のイベントや観光地(城址公園やいきいきプラザなど)へ誘導する方法なども検討してもらいたい。 ・人を集客できる目玉となるイベントなどや、他市町との連携を今後も継続し来場者の増加に努めてもらいたい。

P (計画)	主要施策(シカ)	伸化	基本的方向	今ある価値の伸化			
	取組事項	イベントの活性化		取組区分	新規		
	現状(当初)と課題	蓼沼緑地公園をメイン会場にニュースポーツを始めとする多種目のスポーツ・レクリエーションの実施と、様々なアトラクションを通じて多くの町民に楽しんでもらい、スポーツ活動を知ってもらおうとともに、スポーツを始めるきっかけ作りの場を提供している。 会場の限られたスペースとスタッフ数の中で町民が来場・体験したくなるようなスポーツを選定し、町民一人1スポーツの実践を目標に参加者の増加を目指す。					
	取組の内容	② 町民スポーツ・レクリエーション祭の活性化 町民スポーツ・レクリエーション祭の参加者の増加のため、周知方法や競技及びアトラクションの内容について検討・改善に努める。					
	取組スケジュール	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	周知方法の検討	実施					
	イベント内容の検討	実施					
事業実施した場合、想定できる効果	町民の健康・体力の維持管理と地域の交流の活性化に寄与できる。						
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)	取組(何を)				
		イベントとしての完成度を上げ、参加者の満足度を向上させる。	前年度参加者アンケートに要望のあった、当日に来て参加できる種目として大声コンテストを取り入れた。当日は台風の影響を考慮して実施には至らなかった。 また、上三川町の魅力発信としてブランド認定品を賞品として採用した。				
C (評価)	進捗状況	A: 目標以上に進んでいる。					
	自己評価	良かった点	台風の影響を考慮し、規模縮小で実施することで危機管理リスクの低減に努めた。				
		悪かった点	台風の影響で前日にテントを準備できなかったが、当日は晴天になり、気温が上昇したときの簡易テントや日陰の準備が遅れてしまった。				
(改善) A	実施予定・変更点など	会場内の各種目のレイアウトについては、よりよい形に近づけるように、更なる検討と更新を行いたい。去年実施予定であった、当日参加型の大声コンテストを実施し参加者の反応を確認したい。また、参加者アンケートに長時間滞在するための『食』の部分が足りないとの意見が多数見られたので、今後は町商工会とより緊密に連携をとり、食品販売の出店数を増加させることで、より参加者の満足度を向上させていきたい。					
P/C	数値目標・実績	項目名	単位				
		町民スポーツ・レクリエーション祭の来場者数	人				
		計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)			
		2,100 (H27年実績)	3,200	1,500			
評価	評価委員会評価	・健康マイレージとのコラボなど検討し、双方にメリットがあるPRを行ってほしい。 ・幼稚園や子供向けの発表には父兄など多くの集客が見込めるため、プログラムに積極的に取り組んでもらいたい。					
	B						

P (計画)	主要施策(シカ)	伸化	基本的方向		今ある価値の伸化		
	取組事項	地域発信力の強化		取組区分		新規	
	現状(当初)と課題	現在、町民への情報配信手段の1つとして、町からかみたんメールを配信しているが、今後もより多くの町民に向けて有用な情報を発信できるように、登録者を増加させる必要がある。					
	取組の内容	① かみたんメールへの関心の増加及び適切な登録方法の紹介					
		かみたんメールの発信する情報について町民が興味関心を持てるように、具体的に紹介する。また、登録方法についてもスムーズに登録できるように登録方法の紹介を検討する。					
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	配信内容のPR		実施				
登録方法の説明の最適化		実施					
事業実施した場合、想定できる効果		町民のかみたんメールに対する興味・関心を向上させることで、登録者数(利用者)の増を図る。					
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)			
		全町民		町ホームページや広報かみのかわへの掲載 いきいきプラザの町PRブースでの周知			
C (評価)	進捗状況		A:目標以上に進んでいる。				
	自己評価	良かった点	地域の防災に対する意識の高まりから、登録者数が増加傾向にある。				
		悪かった点	登録者数は増加傾向にあるが、メールの内容に統一感がなかった。				
(改善) A	実施予定・変更点など		各担当課より、多くの情報が配信されているが、件名や本文の内容に統一感がないように思われる。 登録者に送った情報をしっかりと読んでもらえるメールになるように、調査・研究していきたい。				
P/C	数値目標・実績	項目名		単位			
		かみたんメールの登録者数		人			
		計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)			
		2,851 (平成27年4月1日)	5,200	4,706			

評価	評価委員会評価	A	・目標を達成しているため、新たな目標を設定し登録者の増加に努めてもらいたい。

P (計画)	主要施策(シムカ)		伸化		基本的方向		今ある価値の伸化		
	取組事項		地域発進力の強化			取組区分		新規	
	現状(当初)と課題		現在、直売所等で町農産物を使用した加工品の販売を行っている。 今後は、町農産物の競争力・農家所得の向上の観点から、ブランド化および生産から加工・販売までを行う6次産業化を推進する必要がある。						
	取組の内容		② 農産物及び加工品等のブランド化 ・町農産物及び加工品等のPR。 ・町農産物を使用した商品開発を推進する。 ・町産農作物及び加工品等のブランドの認定。 ・農産物の生産から加工・販売までを行う6次産業化を推進する。						
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	町農産物のPR(PR方法の改善)								
	新商品の開発・販売推進								
	町産農作物及び加工品等のブランド認定								
	事業実施した場合、想定できる効果		農作物の新たな販路確保や、農業所得の向上につながる。						
	D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)			取組(何を)		
①消費者への本町農産物・ブランド品のPR ②加工組合の商品開発の推進 ③本町農産物等のブランド品の認定、PR ④6次産業化に関心のある農業者へ周知			①各種イベントで農産物・ブランド品のPR、販売を実施した。 ②県や関係機関の研修会等に参加し、新商品の開発、販売に繋がった。ブランド品においてスカイベリージャム、スカイベリージェラート(青木農園)、ブルーベリージャム(佐藤ファーム)を認定した。 ③かみのかわブランド認定制度によりブランド品を認定し、各種イベントでPRした。H29:14件、H30:14件の認定 ④直売所等に6次産業化に関するチラシを配付し、周知した。 国の6次産業化法・地産地消費に基づく総合化事業計画に2事業者が認定された。						
C (評価)	進捗状況		B:目標達成に向けて順調に進捗している。						
	自己評価	良かった点	地元農産物を利用した加工品を研究開発し、2件の商品を開発、販売に繋がった。ブランド認定品が増加し、町のPRに繋がった。						
		悪かった点	新商品の開発品目の選定に苦労した。						
善(改)	実施予定・変更点など		県や関係機関と連携し、加工組合と情報交換や先進事例研修を行い、新商品の開発、販売に繋げる。新たに整備した農産物直売所を活用して、本町農産物・加工品・ブランド認定品のPR、販売に繋げる。						
P/C	数値目標・実績		項目名	単位					
			新商品の開発(累計)	件					
	計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)						
		2	10	6					
評価	評価委員会評価		・町認定ブランドの推進をしてもらいたい。若年層の就農支援にも繋がると考えられる。 ・せっかく立ち上げたブランドなので価値を高めるよう努力し、汚れたパンフレットなどが店頭にはないようにしてもらいたい。 ・6次産業化も推進し、新たな商品開発を進めてもらいたい。						
	B								

P (計画)	主要施策(シカ)	伸化	基本的方向		今ある価値の伸化																						
	取組事項	地域発進力の強化		取組区分		新規																					
	現状(当初)と課題	農業就業人口の減少に歯止めがかからない中で、遊休農地の発生を防ぎ、単位面積の担い手へ農地の利用集積を加速する必要がある。																									
	取組の内容	③ 中核的担い手農家等へ農地の利用集積																									
		農地中間管理事業を活用した農地集積事業の周知を図る。 広報・ホームページだけでなく、JA集落座談会における周知・指導や、農業者への事業案内の個別配布を行う。 農地の受け手となる担い手の育成・確保を図る。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	町民への周知(周知方法の改善)		検証																								
	担い手の育成・確保		実施																								
	農地の集積		実施																								
	事業実施した場合、想定できる効果		農地の利用集積により、作業効率、単位面積当たり収入額の向上、遊休農地発生を抑止につながる。																								
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
		①リタイアを考えている農業者、農地の相続人等農地の出し手 ②農地の受け手となる担い手		①農業関係団体の会議等を利用して、農地中間管理事業等農地の集積・集約化に係る制度のPRを実施した。 集落説明会の実施、農地中間管理事業の説明会の実施 ②土地利用型経営体育成事業及び園芸産地振興対策事業により規模拡大に係る農業機械や施設の導入補助を実施した。																							
C (評価)	進捗状況		B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																								
	自己評価	良かった点	地域の中心となる担い手に農地が集約できた。																								
		悪かった点	農地の条件が悪いと受け手に借りてもらえない。																								
(改善) A	実施予定・変更点など		農業公社やJA等関係機関と連携して、農地の集積・集約化に関する制度のPRを実施する。 農地の受け手となる担い手の育成・確保を図るため、関係機関と連携を図り、農業に関心のある方や就農希望者に対してPRを実施する。																								
P/C	数値目標・実績	項目名		単位		<table border="1"> <caption>数値目標・実績の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値 (ha)</th> <th>実績値 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>452</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>481.6</td> <td>545</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>511.2</td> <td>575</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>540.8</td> <td>579</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>570.4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>600</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値 (ha)	実績値 (ha)	計画当初	-	452	H28	481.6	545	H29	511.2	575	H30	540.8	579	R1	570.4	-	R2	600	-
		年度	目標値 (ha)	実績値 (ha)																							
		計画当初	-	452																							
		H28	481.6	545																							
H29	511.2	575																									
H30	540.8	579																									
R1	570.4	-																									
R2	600	-																									
利用権設定面積		ha (累計)																									
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
452 (H26年実績)	600	579																									

評価	評価委員会評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・就農者・離農者を把握し、農地の集約化・耕作放棄地が出ないよう努めてもらいたい。 ・大規模経営による稼げる農業に魅力を感じられるよう、農地の集約化を町から働きかけ、推進してもらいたい。

P (計画)	主要施策(シカ)	伸化	基本的方向	今ある価値の伸化																							
	取組事項	生活の向上		取組区分	第2期プランから継続																						
	現状(当初)と課題	平成27年度までの実証運行を経て、平日午前8時便～午後4時便を3台で運行している。令和元年6月からは午後5時便を増便する。今後も交通弱者への周知方法等の検討が必要。																									
	取組の内容	① デマンド交通の利用促進																									
		継続してアンケートを実施し、町民の意向や、自車の利用状況を把握し、地域公共交通整備を図る。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	町民へのアンケートの実施		実施																								
	運行時間、便数、運賃等の検証		検証																								
	町民への周知(周知方法の改善)		検証			実施																					
	事業実施した場合、想定できる効果		交通手段を持たない町民の交通手段の確保。町全域に公共交通サービスを行き渡らせることができる。																								
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
		全町民		お断り件数の減少に向けた検討を行った。利用状況の検討から5時便を用意した。受診からの帰宅に限り、通常予約可能な便に限らず随時予約ができるよう運行業者との協議等を重ね、広報等で周知することとした。																							
C (評価)	進捗状況		C:やや遅れているが、概ね順調に進捗している。																								
	自己評価	良かった点	お断り件数を減少させるために、担当者やオペレータと協議し改善を図った。結果平成29年度下半期お断り件数3.1件/日が平成30年度お断り件数2.0件/日に減少した。																								
		悪かった点	運行業者の善意で、受診からの帰宅の場合の予約を柔軟に受け付けていたが、周知はされていなかったため、規定通りの予約を取っていた方との間で不平等が生まれ、苦情に繋がってしまった。町の認識と運行業者の運用との間でズレが生じないように密にコミュニケーションをとって行く必要を認識した。																								
(改善) A	実施予定・変更点など		5時便増便による効果や、受診からの帰宅の場合の取扱いを周知したことによる効果等を注視し、今後の取組みの参考としたい。 かみたんメール等を活用し、さらなる周知を図り、移動の足を必要としていながらかみたん号の利用に至れていない方を減らす。 1市2町の広域連携バスの運行が始まるため、効果的に利用できるよう周知を図る。																								
P/C	数値目標・実績	項目名		単位		<table border="1"> <caption>利用者数(平均)の推移</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>26.9</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>23</td> <td>18.58</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>24</td> <td>19.1</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>25</td> <td>20.4</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>26</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>27.5</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標値	実績値	計画当初	-	26.9	H28	23	18.58	H29	24	19.1	H30	25	20.4	R1	26	-	R2	27.5	-
		時期	目標値	実績値																							
		計画当初	-	26.9																							
		H28	23	18.58																							
H29	24	19.1																									
H30	25	20.4																									
R1	26	-																									
R2	27.5	-																									
平日3台運行 1日1台当たりの利用者数		(平均) 人/1台・日																									
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
26.9 (平成26年度 実績2台運 行)	27.5	20.4																									
評価	評価委員会評価	・下野市・上三川町・壬生町の広域連携バスとデマンド交通と接続による新たな公共交通網の拡大に期待する。デマンドと広域バスの双方での利用促進を推進してもらいたい。 ・デマンドの利用人数が60人程度ということに驚いた。もう少し利用されるよう利便性向上を図ってもらいたい。																									
	C																										

P (計画)	主要施策(シナク)	伸化	基本的方向		今ある価値の伸化																						
	取組事項	生活の向上	取組区分		新規																						
	現状(当初)と課題	町民への周知は広報、パンフレットの全戸配布、各種健康運動教室等で行っているが、参加率が低い状況である。町民が、自ら取り組む意欲が持てる事業内容に見直す必要がある。																									
	取組の内容	② 健康マイレージ事業の参加促進																									
		周知方法を検討し、町民への効果的な周知の実施。他市町の実施状況や平成27年度参加者のアンケート結果等を基に、事業内容や参加者特典の見直しを行う。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	町民への周知		実施																								
	周知方法の検討		実施																								
	事業内容、参加者特典の見直し		実施																								
	事業実施した場合、想定できる効果		町民が健康づくりの習慣を身に付け定着させることにより、生活習慣病発症の予防、改善が図れる。																								
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
		①事業内容の見直し ②町民に対する周知		① 事業内容の見直し ・おやこ健康マイレージの対象者を幼稚園児から小学生まで拡大する。 ・更に3か月間健康づくりを継続した方を「健康マイレージの達人」として認定する。 ② 町民に対する周知(特に稼働世代を対象) ・商工会を通じて稼働世代に配布し周知。 ・町内の大企業の労組にシートを配布し周知を図った。																							
C (評価)	進捗状況		D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい。																								
	自己評価	良かった点	制度で主なターゲットとする世代に焦点をあて、周知活動を図った点良かった。																								
		悪かった点	参加者が昨年度に比べて微減。																								
(改善) A	実施予定・変更点など		引き続き参加促進のため関係機関等と連携を図り事業の啓発を行う。 ・下野市、壬生町と連携して、それぞれの市町の健康・運動に関するイベントに参加した場合でも、ポイントとして計上できるように事業内容を見直し。 ・マイレージの参加対象年齢を20歳から18歳に引き下げ、参加者を募る。																								
P / C	数値目標・実績	項目名	単位		<table border="1"> <caption>健康マイレージの参加者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>900</td> <td>449</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>900</td> <td>589</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>900</td> <td>560</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>900</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>900</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標	実績	計画当初	0	0	H28	900	449	H29	900	589	H30	900	560	R1	900	-	R2	900	-
		年度	目標	実績																							
		計画当初	0	0																							
		H28	900	449																							
H29	900	589																									
H30	900	560																									
R1	900	-																									
R2	900	-																									
健康マイレージの参加者数	人																										
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
-	900 (平成29年度)	560																									
評価	評価委員会評価	・アプリ活用による新たな参加者が増えるよう周知や改善を行ってほしい。 ・マイレージの参加用紙の説明が抽象的でどの程度の運動から参加していいのか分かりにくい、どんな運動でもよいという意図は分かるが具体例を示したほうが分かりやすいのではないかと。 ・用紙記入が手間で参加者しない人もいる。増やすためには、商品を豪華にすることも検討してほしい。																									
	C																										

P (計画)	主要施策(シカ)		深化	基本的方向		町民・地域との協働																						
	取組事項		町民活動・ボランティアの育成支援		取組区分		新規																					
	現状(当初)と課題		少子高齢化がすすみ、地域における福祉のニーズは増大かつ多様化している。このニーズに対応するためには、行政サービスだけでは限界があり、ボランティアによる住民間の助け合いが必要となる。																									
	取組の内容		① ボランティアセンターの設置 ボランティア活動の推進を図るため、相談・登録・紹介・情報提供などボランティア活動をコーディネートするボランティアセンターを、町社会福祉協議会内に設置する。町は、設置に係る運営費用や制度の周知等についての支援を行う。																									
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	ボランティアセンターの設置			実施																								
	制度の周知			実施																								
	事業実施した場合、想定できる効果		ボランティアセンターの設置により、ボランティア活動が活発化し、行政サービスでは対応できない地域課題に対し解決ケースが増加する。																									
D (実行)	取組実績		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
			① ボランティアの実績のある者 ② 広報誌、ホームページ、各種講座・会議時 ③ 支援者宅 ④ 町内店舗		① ボランティアの実績のある者に登録依頼し、ボランティア提供者名簿を作成。その名簿を元にマッチング ② 左記媒体を利用してPR ③ 支援者訪問時に直接訪問してPR ④ チラシを作成し、町内店舗に貼付し、情報発信																							
C (評価)	進捗状況		B: 目標達成に向けて順調に進捗している。																									
	自己評価	良かった点	ボランティアセンターを設置したことでボランティア活動の活性化に繋がる基盤づくりができた。平成30年度充足率が 98.4% ((マッチング件数)/(依頼件数)=126件/128件)となっており、マッチングの割合が高い。																									
		悪かった点	ボランティアセンターの事業内容について、周知・PRが不十分であった。																									
(改善) A	実施予定・変更点など		昨年度に比べ、マッチング件数が倍増している(56件⇒128件)。引き続き、住民ニーズに応えられるよう、各サロンや自治会等を通じ、広く町民にPRしていく。																									
P / C	数値目標・実績		項目名	単位	100.0 98.0 96.0 94.0 92.0 90.0 88.0																							
			ボランティア充足率	%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>91.0</td> <td>91.2</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>92.0</td> <td>91.8</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>93.0</td> <td>98.4</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>98.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>99.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			年度	目標	実績	計画当初	91.0	91.2	H28	92.0	91.8	H29	93.0	98.4	H30	98.0		R1	99.0		R2		
	年度	目標	実績																									
計画当初	91.0	91.2																										
H28	92.0	91.8																										
H29	93.0	98.4																										
H30	98.0																											
R1	99.0																											
R2																												
		計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																								
		-	99.0	98.4																								
評価	評価委員会評価		・各課で募集しているボランティア事業もあると思うので、せっかくボランティアセンターがあるのであればそこで一元管理できる仕組みを作ることが必要ではないか。																									
	B																											

P (計画)	主要施策(シカ)	深化	基本的方向		町民・地域との協働																						
	取組事項	地域防災力の強化		取組区分		新規																					
	現状(当初)と課題	本町地域防災計画で規定している自主防災組織の設置に関して、現状は未設置である。																									
	取組の内容	① 自主防災組織の設立推進																									
		自治会に自主防災組織の設立を推進する。																									
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																				
	自主防災組織設立のための自治会説明会		実施																								
事業実施した場合、想定できる効果	災害時に避難実施や救出救護による被害の軽減が図れる。																										
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
		対象地区(16自治会)		合同説明会(16自治会)及び個別説明会を実施																							
C (評価)	進捗状況		D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい。																								
	自己評価	良かった点	全体説明会(H30. 8. 21)を実施し、自主防災組織の必要性を説明。趣旨を理解してもらうことには繋がっている。																								
		悪かった点	浸水想定区域外の自治会が対象となったため、必要性は理解していただけだが、実際に設立に向けた動きまでは至っていない。																								
A (改善)	実施予定・変更点など		平成27年度から30年度までの推進地区で、未設置となっている自治会には設立推進の呼びかけを強化する。 設立済みの自治会については、防災計画や防災訓練などの助言や活動のサポートを行う。																								
P/C	数値目標・実績	項目名		単位		<table border="1"> <caption>数値目標・実績の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>20</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>30</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>40</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>45</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	計画当初	0	0	H28	10	10	H29	20	18	H30	30	23	R1	40	-	R2	45	-
		年度	目標	実績																							
		計画当初	0	0																							
		H28	10	10																							
H29	20	18																									
H30	30	23																									
R1	40	-																									
R2	45	-																									
自主防災組織数		組織																									
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																									
0	45	23																									

評価	評価委員会評価	C	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害の時に、全戸避難する際には自主防災組織を活用する必要があると考えられるので、検討してもらいたい。また、防災MAPの見方が分からないという声もよく聞くので対応を検討してもらいたい。 ・自治会では自主防災組織として必要な装備が分からないので、よく周知してもらいたい。 ・大規模災害時などでは指定された避難所まで行けないことも想定されるので、第2・第3の避難所も分かるようにしてもらいたい。 ・大規模災害時に町からの情報を待つだけでなく、地域で自主的に動く必要性を訴えて、自主防災組織化を推進してもらいたい。

P (計画)	主要施策(シナク)	深化	基本的方向	町民・地域との協働		
	取組事項	住民参画の推進		取組区分	第2期プランから継続	
	現状(当初)と課題	平成27年度までに、全7小学校区のうち、6地区がコミュニティを組織化している。残る1地区(上三川小学校区)の組織化と、石田地区コミュニティを含む北小学校区コミュニティの構成区域の見直しが必要。				
	取組の内容	① コミュニティ活動の推進 通常の業務の中から機会を見つけ、組織化等の働きかけを行う。 本郷コミュニティとの話し合いを持ちながら、コミュニティセンター整備に向けた検討を行う。				
	取組スケジュール	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	上三川小地区における推進協議会設立に向けた推進	働きかけ				
	北小地区における推進協議会設立に向けて、石田地区コミュニティを含めた構成区域の見直し	働きかけ				
本郷コミュニティセンターの整備	検討					
事業実施した場合、想定できる効果	地域コミュニティ活動の活性化が図れる。					
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)	取組(何を)			
		本郷コミュニティ推進協議会	推進協議会又は一部地域住民からの課題提起等に対応し、コミュニティセンター建設整備にあたっての地元の現状把握に努めた。			
		石田コミュニティ推進協議会	・北小地区の子どもの利用状況等を踏まえ、センターの役割等の考え方について意見交換を行った。			
C (評価)	進捗状況	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。				
	自己評価	良かった点	本郷コミュニティセンター整備に関して、地元からの課題提起等に対して、その都度、行政(担当・関連部署)と地元の情報共有・再確認を図ることができた。			
		悪かった点	本郷コミュニティセンター整備に関しては、地元合意を必須としているが、現在、その状況が揺らいでおり、進展を得ることができなかった。また、組織の見直し・未組織地域の組織化に関しては、地元コミュニティへの説明機会をあまり持つことができなかった。			
A (改善)	実施予定・変更点など	【H31年度の実施予定】 ・組織改変により総務課から地域生活課への事務が移管したので、まずは地元と新担当課との信頼関係を築き、コミュニティ組織のあり方や必要性を周知する方策等を検討する。 ・本郷コミュニティセンター整備は、地元協議会の意見を聴きながら、課題解決に向けた具体的な取組みを検討し、実施していく。 ・構成区域の見直しや未組織地域の組織化は、地元地区社協の会議等において各種働きかけを行う。				
P/C	数値目標・実績	項目名	単位			
		コミュニティ推進協議会組織数及び構成区域の見直しを行う。 コミュニティ未組織地域の組織化を促進する。	組織			
		計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)		
		6	7 (構成区域の見直し)	6		
評価	評価委員会評価	・地域コミュニティの更なる必要性を周知して、上三川町全域でのコミュニティ組織設立の実現に向けて、進めてもらいたい。 ・評価が難しい内容であるが、各コミュニティの意見を吸い上げて、円滑な運営ができるよう進めてもらいたい。 ・地域での意見を聞き、地域内で話をじっくり進めてから取り組んでもらいたい。				
	C					

P (計画)	主要施策(シカ)	深化	基本的方向		町民・地域との協働		
	取組事項	住民参画の推進		取組区分		新規	
	現状(当初)と課題	モニタリングで評価指標の一つになっている利用者アンケートの回収数が減少しており、いきいきプラザに関する意見が一利用者からの声なのか、それとも利用者全体からの声なのかが把握しにくくなっている。 平成20年度(518件)→平成26年度(131件)					
	取組の内容	② いきいきプラザ利用者提案制度の推進					
		いきいきプラザのアンケート内に利用者提案の枠を設け、そこで挙げた意見(明らかに実現できないものを除く)について運営委員会で審査を行い、実現したが良いと判断されたものを実施していく。					
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	利用者提案枠を設けたアンケートの実施		実施				
	いきいきプラザ運営委員会での審査			実施			
	審査結果の採用			実施			
	審査結果の掲示			実施			
事業実施した場合、想定できる効果		利用者アンケートの回収数の増加。 利用者参画型運営の実現。					
D (実行)	取組実績	対象者・物(誰・何に)		取組(何を)			
		①上三川いきいきプラザ利用者 ②いきいきプラザ運営委員会の委員		①利用者提案枠を設けたアンケートを実施した。 ②平成29年度のアンケート結果を開示し、審査を行った。			
C (評価)	進捗状況		A:目標以上に進んでいる。				
	自己評価	良かった点	昨年度のアンケート回収数は、806枚(強化週間で回収したアンケート700枚、常設のアンケート106枚)であり多くの利用者から御意見をいただくことができた。第1回委員会で利用者提案について意見を集約し、改善・サービス向上につなげることができたこと。				
		悪かった点	・アンケートの利用者提案では、設備の増設や施設の拡張に関する提案を多く頂いた。しかし、増改築は直ちに実施できるものではない。利用者提案による運営方法を採用していくには、身近なところで改善できる部分を提案していただくようにするなど、設問の問い方に工夫が必要である。				
A (改善)	実施予定・変更点など		・アンケートの回収強化週間は、利用者からの御意見を多くいただけることから今後も実施していく。 ・アンケート結果は、いきいきプラザ館内に掲示し、利用者にフィードバックを行う。				
P / C	数値目標・実績		項目名	単位			
			利用者提案による運営方法の採用	件			
			計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)		
			-	4	8		
評価	評価委員会評価	・アンケートにより利用者の要望を吸い上げ、改善していることは良いので継続してもらいたい。 ・利用者の満足度についても項目ごとに分けて調査を行うことは継続し、改善につなげ利用者の満足度向上に取組んでもらいたい。					
	A						

P (計画)	主要施策(シカ)	深化	基本的方向		町民・地域との協働																							
	取組事項	住民参画の推進		取組区分		第2期プランから継続																						
	現状(当初)と課題	審議委員会等への女性委員の登用率は、平成26年度実績で33.7%の達成状況である。今後も達成状況を踏まえ、更なる女性の積極的な登用を目指す。																										
	取組の内容	③ 女性委員登用率の向上の推進																										
		各課に対し積極的に女性を登用するよう促す。																										
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
	審議委員会等への女性委員の登用		実施																									
事業実施した場合、想定できる効果	審議委員会等への女性委員の積極的な登用が推進されれば、町の政策や方針決定過程に多様な視点、新たな発想を取り入れることとなり、町民の意見を的確に反映できるとともに町の発展につながる。																											
	D (実行)		対象者・物(誰・何に)		取組(何を)																							
取組実績		各課		審議会委員等への女性の登用を呼びかけた。																								
C (評価)	進捗状況		C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している。																									
	自己評価	良かった点	男女共同参画について男女共にそれぞれの意見を出し合え、互いを理解する機会を持たた。																									
		悪かった点	昨年度から3.1ポイント減少した。 理由:各団体の代表者が充て職で委員になっているものが多く、代表者の変更により登用率が下がった。																									
A (改善)	実施予定・変更点など		委員の公募制を積極的に取り入れ、女性の登用に努めるよう呼びかける。各委員会において男女双方の意見を取り入れられるように配慮することを所管課に働きかける。男女の意識改革を図ることを目的に、男女共同参画や、女性活躍に関する研修会等への積極的な参加を呼びかけていく。																									
P / C	数値目標・実績		項目名	単位		<table border="1"> <caption>女性委員の割合に関する数値目標と実績</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>35.0</td> <td>33.7</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>35.0</td> <td>37.7</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>35.0</td> <td>34.8</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>35.0</td> <td>31.7</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>35.0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>35.0</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	35.0	33.7	H28	35.0	37.7	H29	35.0	34.8	H30	35.0	31.7	R1	35.0	-	R2	35.0	-
			年度	目標 (%)	実績 (%)																							
			計画当初	35.0	33.7																							
			H28	35.0	37.7																							
H29	35.0	34.8																										
H30	35.0	31.7																										
R1	35.0	-																										
R2	35.0	-																										
審議委員会等への女性の積極的な登用	女性委員数 / 総委員数																											
計画策定時 現況値	目標値 (R2)	実績値 (H30)																										
33.7% 【315人中106人】 (平成26年度実績)	35.0	31.7																										

評価	評価委員会評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 女性委員の割合を向上させる所管として、各種審議会の委員登用基準の見直しの働きかけが必要ではないか。 適材適所があるため、登用率だけにこだわる必要はないと考えるが、委員の選考にあたっては男性の長のあて職ではなく、下の役職の者からも選出できる仕組みの見直しを検討してもよいのではないか。

削除		策(シムカ)	深化	基本的方向		官民協働	
		事項	民間活力の導入		取組区分		第2期プランから継続
P (計画)	現状(当初)と課題	施設の老朽化による修繕費の増加が懸念されるほか、現在の施設では0歳児からの保育ができない状況である。また、国・県からの補助等が見込める民間に比べ公立保育所の費用は自主財源のため、町の財政的負担が大きい。					
	取組の内容	② 大山保育所の民営化					
		平成30年4月の民営化に向け、法人を募集し、法人が新設の保育所を整備する。施設については今後の保育需要を見込んだ定員と0歳児からの受入や特別保育の実施を条件に整備を行う。					
	数値目標・実施期限等	項目名	単位	当初(平成28年度)		目標	
		大山保育所の民営化	—	—		平成30年4月から民営化	
	取組スケジュール		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	法人等の募集及び決定		実施				
	施設整備及び民営化移行準備			実施			
大山保育所の民営化				民営化			
事業実施した場合、想定できる効果	民営化により、保育所運営費等の国庫負担金等の導入等による経費の削減と人件費の削減が可能となる。 また、0歳児からの保育など多様な特別保育の実施により保育サービスの向上が図れる。						

P (計画)	主要施策(シカ)		深化	基本的方向		自治体との連携																							
	取組事項		自治体間の交流推進		取組区分		新規																						
	現状(当初)と課題		○平成26年2月に茨城県大洗町との友好都市協定を締結 ○栃木県県央都市圏首長懇談会、宇都宮地区広域連携研究会での情報交換の実施、施設の広域利用。 現在は、企画部門、商工部門、生涯学習部門など1部門での連携であるが、今後も様々な面での交流、連携を視野に入れる必要がある。																										
	取組の内容		① 地域間交流活動の推進 友好都市協定を締結している茨城県大洗町をはじめ、他自治体との地域間において、教育・文化・スポーツ・災害対策など様々な面での活動や施設利用、情報の交換による交流・連携を推進する。																										
	取組スケジュール			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度																					
	大洗町との交流事業			実施																									
	他事業での交流・連携の検討			実施																									
	事業実施した場合、想定できる効果		他自治体等との交流・連携を通じて、本町の活性化や人材育成につながる。																										
	D (実行)	対象者・物(誰・何に)			取組(何を)																								
①文化祭での交流(大洗町) ②お祭りなどでの交流(大洗町) ③消防団活動での交流(大洗町他) ④広域連携事業(下野市・壬生町) ⑤野木町職員との合同研修 ⑥かみたんの出演(近隣市町)			①相互の文化祭に参加 56人 ②健康福祉まつりとあんこうまつりで交流 16人 ③相互の消防団通常点検等に参加 54人 ④婚活事業 117人 ⑤神奈川県山北町への合同研修 28人 ⑥町外のイベント等出演 14回																										
C (評価)	進捗状況		A:目標以上に進んでいる。																										
	自己評価	良かった点	昨年度の反省点であったイベントの交流以外に、共通の行政課題の解決に向けた交流や勉強会として、野木町との合同研修を行い、連携を強化することができた。今後は課題解決取組のステップに向けた検討を進めていきたい。																										
		悪かった点	野木町職員との合同研修などの新たな事業に取り組むことができたが、数が少ないため、もっと多くの事業で交流できるようにしていきたい。																										
(改善) A	実施予定・変更点など		移住定住など複数市町で取組むことにより、相乗効果が見込める事業について、宇都宮市を中心とした県央都市圏首長懇談会、下野市・壬生町との1市2町連携会議などを積極的に活用し、国の地方創生推進交付金の活用を図っていきたい。また、近隣市町との結びつき強化のため野木町に続き、壬生町との合同研修を実施を検討している。																										
P/C	数値目標・実績		項目名	単位	<table border="1"> <caption>地域間交流事業参加者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>110</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>120</td> <td>198</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>130</td> <td>269</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>280</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>300</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>				年度	目標	実績	計画当初	-	100	H28	110	119	H29	120	198	H30	130	269	R1	280	-	R2	300	-
	年度	目標	実績																										
計画当初	-	100																											
H28	110	119																											
H29	120	198																											
H30	130	269																											
R1	280	-																											
R2	300	-																											
			地域間交流事業参加者数 計画策定時現況値: 100 (平成26年実績) 目標値(R2): 300 実績値(H30): 269																										

評価	評価委員会評価	・友好都市などと相互交流を強化できるよう検討してもらいたい。 ・近隣市町との連携を強化し、他市町のデマンド交通相互利用を進めてもらいたい。
	A	